



palareru

palareru

2013/11/18

ばれるの別館にお越しにいたっていた皆さん、この度は

おさがせしました。

違反行為なので、素直に消去し、こちらの別館は妄想小説

置き場にすることにいたしました。(；^ω^)

シリーズ作品を楽しみにいらしていた皆さんには申し訳ない

のですが、新館へ移動させていただきました。

ばれるわあるど小説 にて検索すると、直ぐに行けるそう

です。（読者さん情報・・・笑）

また、本館（アメブロ・PALARERU）には小話を更新してい

ますので、よろしければそちらにも遊びにいらしてくださいね。

ここで出会えた皆さんとのつながりを大切にして、さらなる

萌えを妄想していきます。 腐腐

では、またどこかの小説置き場でお会いしましょう。

こちらは、不定期に、それこそ怪しい妄想小説置き場になる

と思われます。苦手な方は、読者登録解除して下さいね。

では、では・・・、ありがとうございました。

(//▽//) ぱられる

この想い・・・おまけ、のおまけ。

「まお、俺...もうダメ・・・んん・・・」、何度目かの高まりを

マオの中に放ち、その華奢な、白い素肌に俺の身体を寄

せそのままゆるく揺れる。

「・・・僕も、だめ・・・だいちゃ・・・ん・・・」、俺の手に上下され

たそこを引くつかせ、シーツの上にその波を飛ばしたマオ。

「だい・・・ちゃん・・・大丈夫？・・・頭・・・痛くない・・・の・・・？」、

俺にまだ揺られながら、マオが心配そうに呟く。

「ああ・・・大丈夫だよ。こんなにたくさん薬もらったからな・・・」、

っと俺がニヤリと笑いながら言うと、

「・・・ばか、・・・逆だし・・・」、っと、照れている。

「それにしても、いい先生だったな・・・」、俺が思い出したよう

に言うと、

「え？・・・」、マオのそこがギューツと締まった。

「ん・・・マオ・・・ど・・・し・・・た・・・」、俺のそこはその刺激でまたムクムクと

頭を上げる。

すると、ちゅるんっと、そこを引き抜き、俺の方に向き直したマオが

「僕、あの先生嫌い！！、絶対に、大ちゃんに気があるもん！！」

っと、頬を膨らませた。

「何言ってんだよ、奥さんの話だって言ってただろ？結婚して・・・」、

「してないよ！！、あの先生、独身だから！！そんでもって、有名

なんだよそっち方面で！！」、俺の言葉を遮てマオは怒る。

「そうなのか？・・・」、俺がビックリしていると

「だいたい、偏頭痛がわかるまでどんだけ大ちゃんを見てんだよ！！、

絶対変態！あ～も～ム力つくし・・・！！」、

マオは俺の首に飛びついた。

「大ちゃんは僕の物なんだから・・・、絶対誰にも触らせないんだから・・・

ああ！！？大ちゃん、どこ？どこ触られたの？、あいつ脳外科なのに、

まさかこことか触って無いよね？、ここは？ここは？」、

マオは次々と俺の身体を確認する。

消毒だからね！っと、身体の隅々をマオに食べられて俺は徹夜で

朝を迎えた。

いつも言葉にしてくれるのは、マオ。

俺はいつからか気持ちを言葉にできなくなっていた。

これからは、素直になるよ。　ありがとう、マオ。

天使に揺られながら、この幸せを手放さなくて良かったと心から思う

俺なのでした。

(〃▽〃)おっしまい。